

いちりづかあと まつ 一里塚跡と松

市指定有形文化財（史跡）

赤湯地区の花台橋のそばにきれいな緑色をした姿のよい松があります。ここは、米沢街道に一里塚が置かれた場所です。同様の一里塚は、川樋や小岩沢の入口、中山の懸入石付近にもありました。慶長 9（1604）年に、幕府が街道に一里（約 4km）ごとに土を盛り木を植えて「一休みができ、道しるべとなる一里塚を造るように」と命じました。米沢藩においても同年、米沢城下の大町辻を基点に、街道に土盛りの里程標（距離等を記して道路脇等に立てた標識）が造られました。

さて、米沢領と山形領を結ぶ主要な街道であった米沢街道は、以前は白龍湖の東山際を大きく迂回するものでしたが、蒲生氏郷によってほぼ直線的に造られました。北条郷では、大橋・俎柳・長岡・赤湯・清水町・北町・鳥上坂・新田・川樋・小岩沢と道が通っていました。そのうち、大橋・赤湯・川樋・小岩沢は規定の人馬を準備して荷物の継ぎ立て等を行う宿駅でもありました。

また、米沢街道の脇街道として小滝街道があります。米沢街道の大橋・俎柳につながる中ノ目・蒲生田・宮内を通り、金山・荻・小滝を経て、山形領の長谷道へと続く道です。この街道は峠もあり遠回りの道でしたが、宮内から金山・釜渡戸を越えて中山へ行く道（釜渡戸道）を通ると、赤湯・川樋・小岩沢の宿駅を通らずに、次の宿駅の中山に行くことができ、宿駅に支払う駄賃等の節約になるため、数多くの商人等がこの道を通っていました。

一里塚は社会の変化などにより次第に失われていますが、花台橋には、立派な松のある一里塚跡が大切に保存されています。



南陽市文化財保護審議委員 前田みゆき
平成 28 年 9 月 1 日号 市報なんよう掲載